津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（代表3111番）
編集　編集委員会
印刷所　旭印刷所
電話（水俣）③4101番

▶写真は羊飼いの少女（ミレー展より）

名講演のコツ

町　長　六車孝吉
聞き手　岡松　壮

お目出度うございます。おいそがしいところご迷惑でございました。正月号ですから、おトソ気分をそこなわない程度のお話にしたいと思いますので、どうぞそのおつもりで…。

●聞くところによりますと、町長さんのお話は大へん評判がよい。何が原因だとお思いになりますか。

町長　私は自分で自分の話はよいとは思いません。

●ご謙遜ですが、たしか町内の婦人会、老人会はいうまでもなく、自衛隊、はては福岡の小郡からまでお願いをしたそうですが、何がそんなに引きつけるのでしょうか。

町長　サァー（長考）。

●町長さんは読書家ですから話の材料が豊富です。ご自身は雑学といっていられますが、各方面の本を読んでいられる。いわゆる「もの知り」であられるから、話の材料が山のようにすぐ集まり、それを整理すればすぐお話になるのではありませんか――。

町長　それはたしかにあると思います。旅行の先ざきで本を買います。東京に行けば飛行場に下りると本屋に行って本を買い、帰るときもまた買います。熊本に行ってもそうします。

●お話をされる心構えといいますか、方法といいますか、それを……。

町長　わかりやすく話すということ、そのために例話をもってくる。また、時々ユーモアを加えます。例えば「夫婦」ということについても凧を例にとり、凧は主人であり、妻は「しっぽ」である。凧はしっぽがあって安定し、バランスがとれて天空高くあがるというように話します。そして更に、しっぽが二つあればなおよい、とつけ加えると聴衆はドッときます。

●お話の方法はわかりましたが、その目的といいますか、お話の本体については――

町長　「○○についてお話してください」というのは別として、聞き手の要求していることは何だろうと察します。

●私たちがタブーとして口にしない性のことも、町長さんは医者としてご自由にお話になれますのでうらやましいことです。

町長　その点、私が話すと生臭さが残りません。例えば、風呂に入る前またくらの前の部分はよく洗うが、お尻は洗わない。このお尻を洗うことの方が衛生的であるとか、女がアソコを拭くとき、擦らずに押えて拭き、後の方は、手を後へ廻して拭かなければ、汚物を前に擦り込むことになり衛生上よくないなどは、医者だからこそいえることです。

●お父上は大へん読書家でした。町長さんはその影響があるとお思いですか。

町長　いつも父が机にむかって本を読んでいる姿を見てきました。父は私が済々黌時代に死にました。生きていた時は何でも相談にのってくれました。それで本を父と思って、わからぬところは本に聞くつもりで一生懸命本を読むようになりました。

●お若いころはギターをおひきでしたが、今もやっていられますか。

町長　続けています。寝る前には必ずひきます。

●町政も、音楽のもつ新鮮さと若々しさと、やさしさやわらかさから生れるような感じがしますが……。

町長　それに厳しさが必要です。楽譜をごまかすことは絶対許されません。勝手にひいていたら合奏は成り立ちません。おっしゃるとおり、音楽は若さをいつまでも保ってくれます。

●始められてからもう何年ばかりになりますか。

町長　四十年になります。

●やはりクラシックですか。

町長　そうです。しかしこのごろは流行歌もひきます。こないだの忘年会の余興にギターをひいて聞かせましたら、意外さに驚いていたようでした。

●今年も読書とギターでよい町政が生れますように。

どうもありがとうございました。

'79 祝成人

今年も成人式が去る一月四日開催された。午前中新成人一〇一名の参加者がバス三台に分乗して、町内を一巡（ふるさと探訪）した。今年は新たに、舞鶴城公園が加わり平国小学校の敷地造成、干拓地の陸上競技場敷地造成など見る所が多かった。午後は中央公民館で、式典。婦人会の心づくしの会食のあと津奈木小学校に会場を移し記念撮影引続き青年団が主管して、キャンドルサービスが催された。十数回におよぶ成人式実行委員会（青年団）の綿密な計画のもとに行われた成人の集い（感謝の集い・歌と踊りの集い・希望への集い）は、成人者達も、ときを忘れるほどのにぎやかさで、別れを惜しみながら午後六時終了した。

▲写真は舞鶴城公園にて。

【才時記】
明くる夜も
ほのかに嬉し
よめが君
其角

（正月三ヵ日）のあいだ、ネズミのことを「嫁が君」と呼ぶ。古くからネズミは大黒さまの使いと考えられ、正月にこれをもてなす風習も、広く行われている。

新春に競う マラソン大会

町教育委員会主催の新春マラソン大会（第一回）が去る一月七日、干拓地陸上競技場予定地前を出発点にして、百十二名の選手がそれぞれ、小学生の部（三、四km）一般・中学生の部（三、四km）一般・中学生の部（十km）の三組に分かれ、三、四kmは干拓提防を一周、十kmは湯の児道路の京泊を折返して行われた。

成績は次のとおり

一般・中学生の部　十km
一位　小林俊二
二位　永里省吾
三位　森田幸治
四位　福山幸喜

一般・中学生の部　三、四km
一位　永田勝己
二位　吉野恭一
三位　森下裕人
四位　長浜和利

小学生の部　三、四km
一位　福山春男
二位　野崎慶峰
三位　福田征起
四位　津々木浩二

▲写真は開会式風景…。

名木紹介

【ニッケイ】
（クスノキ科クスノキ属）
場所　津奈木町中尾
所有者　農村優氏
樹令　百十数年（推定）
幹囲　約二米二〇糎

働きながら学ぶ学校
熊本県立江津高等学校

熊本市の南東、江津湖に近い閑静な地に本年四月一日から定時制通信制だけの県立江津高等学校が開校されます。

今までの済々黌、熊高、熊商に定時制第一高校の通信制が募集停止になり、代って第一学年からすべて江津高校で受付けます。

本校は文部省のモデル校の指定を受け、五階建の校舎、特別教室、大小二つの体育館など西日本一の施設設備を整えています。

定時制　（省略）

通信制　毎日（夜）通学できない人々のために設けられた制度で、普通科のみ、特に入試や定員はありません。

江津高校まで足を運べない人達のために、芦北農林高校でも授業を行います。年間十五回ほど日曜日に登校して、一日六時間程度の授業を受けます。

そのほか学校からレポートを（一教科年間約十回）課せられますので教科書、学習書NHK通信高校講座などを利用して解答し添削を受けます。

年三回の試験があり合格すれば単位が認定され、在学期間は四年を原則とします。

いろいろの、年令の人がおり、看護婦、会社員のほか近年家庭の主婦の増加が目立ちます。平均年令は約三〇才です。中学校卒業後十数年もたっているので、今さら高校の授業についてゆけるかと不安に思うかもしれませんが、大多数が成年に達したそのような状態の方々ですから、決してご心配にはおよびません。

募集期間は定時制二月七～十四日、通信制二月二十日～三月二十四日です。

詳細は熊本市出水四丁目三五〇、県立江津高等学校☎〇九六三―七一―〇四九五にお問合せ下さい。

寄贈　平国小学校へ

母校の後輩を思う本校出身の方から、ご寄贈を賜わりました。この善意を明日の子供達の教育に生かしたいと職員一同感激しております。

ありがとうございました。

野球得点板　一台
平国上　浜田繁満氏

肥後狂句　堀双岳選

（順不同）

やっとかっと、最終列車にとびのった
霜、歩こう会のうっさめた　**市平**

やっとかっと、買うた着物の合わさらん
霜、御停のゴラも目立ちおる　**凡子**

やっとかっと、大平丸の舟出する
霜、池は一面ガラス張り　**凡九郎**

やっとかっと、貰うた嫁女にこなさるる
やっとかっと、その日暮らしが精一杯ァ　**拙者**

やっとかっと、蜂楽まん十が九ッ目
霜、朝刊太郎がむぞなげェ　**双岳**

次題
短気もん・ソーラ来た。　四句限り
二月十五日　津奈木町公民館へ

平常心

教育委員会　田上一智

あけまして　おめでとう　ございます

昭和五十四年の第一歩を力強く踏み出すに当りまして、津奈木町教育の現状を申しあげ、御指導と御協力をお願い申しあげたいと思います。

学校教育面では、平国小の建設が終りますと町内四校とも鉄筋のすばらしい校舎が出来ます訳で、施設の充実とともに教育内容の向上をめざしています。

社会教育面では乳幼児家庭教育学級に始まり、少年団、青年団、婦人会、老人クラブ等と全く町内全部を対象としたものが実施されて居りますので、皆様の御参加をお待ちしております。

特に昨年は青少年育成町民会議が結成され、本年から実動に移りますので、町民全部の御協力により、津奈木町内の青少年の健全育成に万全を期したいと思います。

社会体育面でも、お蔭様で三校に夜間照明を設置して頂きましたので、各種スポーツ教室が開かれ、体育の向上に努力しております。

幸いにして近い内、城南唯一の四百メートルコースを持つ運動場が干拓地に造営されることになりました。これが完成をみますと、津奈木はスポーツのメッカとして注目される事でしょう。

公民館では館報編集会の努力で公民館報を発行して居りますが、町民の皆様に親しんで読んで頂くものにしたいと思って居ります。皆様の御投稿と御意見等をお待ちしております。「手放しで祝っておれぬ御正月」という句が頭をかすめます。

年の始めに一年の計を立ててスタートするとよく言われますが、教育の現場は一年三六五日の毎日がスタートの日々である様です。

平常心を大事にして、一日一日の確かな歩みを進める、この様な事を考え乍ら新年号に筆を執らせて頂きました。

津奈木の芸術 (五)

松本克任氏略歴
松本敏氏二男、大正五年生、熊中、五高を経て熊大医学部入学、在学中応召、昭和二十一年七月マリアナ島にて戦死の公報、享年三十一歳、陸軍大尉。

林勝氏の話
私の見た絵は阿蘇の草原の絵であった。若々しくて、色彩感にすぐれ、みずみずしい感じをうけた。絵の専門の坂本善三先生も、いい絵だとほめていられた。

鶴野六良氏の話
私は熊本市の勧業館の夕方の絵だったが、ブラックを主としたタッチの荒い絵で、元気がよかった。

令弟本得三氏の話
専門的に勉強していないので、自分の思う通り大胆に描いた。感覚的であり、シャープであった。

以上三氏のお話は大体一致しているようだ。そして坂本先生の批評、九州美術展で入賞した話（令妹田多子さん）などからして、相当の腕であったことがわかる。

ここに掲げた絵は氏の代表作とはいえないかも知れないが私達が探し得た、唯一の遺作で、貴重なものである。

新川土手のハゼの木

寛政八年津奈木川の（今の中学校前あたり）堤防が切れて大水害があった。当時の総庄屋の徳富多太七は従来の川を廃して別に新たに川を作った。今の川がそれである。

新しい川だから新川で元の川は古川になった。

その時川堤にハゼの木を数百本植えた。

ところが今残っているのは九本だけ。それも中には死の寸前のものもある。約一八〇年間生きながらえている。

当時は津奈木の財政に寄与し、ハゼ紅葉で心を楽しませた。

これらのハゼの木を大事にいたわってやりたいものである。

▶左の方にもツルに巻かれて小さくなっているハゼの木がある。

ハテ？何んでしょう

写真の石は津奈木川上流の柏原附近で河川改修工事の床堀中に出土したもので、長浜一也さんからいただきました。

年代は相当古いようですが何につかわれたか不明です。

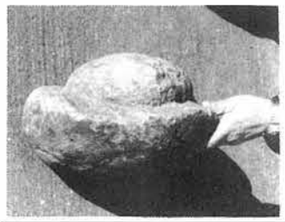
又、坂口栄蔵さんからも、上下門岩瀬の圃場整備事業工事中に、石斧が出土した、と届出がありました。

これ等は貴重な文化財の資料として、町の資料室に保存させていただく。す。

親恋笛 (5)

津奈木民話　堀二雄

あんまりお月様が美しいので、おつきは体の苦しさを忘れて、つい外に出ました。両手を合わせて、お月様、どうぞ、父さんが無事で、早く帰って来るように頼みますと、祈っていると、お月様が、だんだんと大きくなりながら、近づいて来ます。おつきは、じっとお月様を見つめていると、お月様の中に、おつきの母さんが見えました。あァ母さん！



翌日、朝早く、朝もやをつと叫びながら立ち上りました。母さんは両手をさしのべながら、やさしい顔で、おつきよ、早くおいでと言っているようです。そう母の手のとどくところまで近まりました。

おつきは、母さん！と叫びながら、やさしい母さんの、胸にとびこんで、力のかぎりすがりつきました。

茶屋の、じいさんも、ばあさんも、おつきが外へ出たことも知らずに、済まない、済まないと、泣きながら両手を合わせて、念仏をとなえていました。

虚無僧は、村に下りて、部落の人々に告げ、おつきのお葬式をすることになりました。

ままはの母のおくまは、おつきが死んだことを知らされると、心の中では、丁度よかった、これで入目が減って、わが家は大助かりと、よろこびながら、そっと目につばをつけて、ワァワァと大声で泣きながら、悲しいまねをして、人の哀れみを受けようとしていました。

かんたんな、お葬式があっておつきの小さなお墓が出来ました。

いて昨日の虚無僧が、峠にかえって来て。峠の地蔵様にすがりついたまま事切れているおつきを見て、大変おどろき、走りよって、おつきをだき起したが、もうおつきは冷たくなっていました。でもおつきの顔は、母さんのふところに、だかれているようにほんとうに安らかで、少し笑っているようにさえ見えます。然し頬には幾すじも涙のあとが光っていました。

ふるさとがなつかしい

語る人（熊本市在住）●林勝●鶴野六良●谷村忠継

大明神のまつり

大明神の祭についてはなつかしい思い出が数多くあります。何百年かたった椎の木に囲まれて、中央の方屋を中心に、お宮、石段の外は棧敷が段々にかけられました。杉の葉のにおい、漆の弁当箱の香りは、はなやかで祭りの思い出として忘れられません。

お宮は相撲見物から生ずる大きい協和音が波立ち、ピーとかブーとか子供達が吹き鳴らす音が断続し、祭り場はたのしい音で包まれていました。

店・店・店

腹がふくれると、また店の中に走ってゆきました。

ひょうたん型のガラスびんに入ったニッケシュは必ず買わねばならぬものの一つでした。からになると、びんのロにくちびるを当ててヒューヒューと鳴らしていました。

トーメガネがきました。ふすま大の大きな絵をレンズをとおして見ました。一回二銭だったようでした。

▶五十年前の大明神の森

南潮会の思い出

古い公民館のあるころだった。斉藤寛さんも元気のころだった。まだ学生で張り切る情熱の湧きでるころだった。

五十年前の南潮会のころがなつかしくてならない。

次は南潮会第一回のときの案内書である。少さい字は読みづらいので、それを書いてみる。

同人　林勝　鶴野六良
　　斉藤寛
出品点数　同人作品約六十点
　　油絵　水彩画　版画
特別出品点数
　　九州帝大美術会員作品
絵を描いている私達三人が南潮会という洋画のグループを作りました。第一回展です。見に来て下さい。私達の呼びかけをきいて下さい。

（第二回から同人に谷村忠継氏が参加した。）

絵の両側に立っていて竹の棒をパチくたたきながら、節をつけて絵の説明をしていました。

「ほととぎす」「常陸丸」「乃木大将」などがあったようでした。

紙で張った張り子の馬を、板車にのせたものも売っていました。

「二銭何でも屋」といって、そこに並べてあるものは何でも二銭でした。

からいも飴は一銭に三十ばかり来ました。その味も忘れられません。

祭りには必ずといってよいほど、ケンカがありました。

相撲の上からでしたろうが祭りの終りごろ起きていましたので、それをしおどきに皆引きあげました。

同人

同人の四人とも津奈木出身である。斉藤寛氏だけが故人となられた外は三人とも元気で熊本市にいる。私達二人は杏美会（熊本市にいる医者の同好会）を組織し、仲間と医業のかたわら五年前のように描き続けている。（注）林さんは今山病院長、鶴野さんは再生病院の耳鼻咽候科の医者さん。谷村さんは退職して悠々自適。

右より林勝、一人おいて谷村忠継、鶴野六良

南潮会に続く人々

南潮会以前に絵を描いた人は染竹の**鶴野清氏**（明三一～昭三九）であろう。美術学校を中退し、立木測定器を発明して有名になられた。

それで津奈木で絵を描き始めた人は南潮会（**林勝・鶴野六良・斉藤寛**（故人）**谷村忠継**）の四氏である。

しかも左の三氏は今も健在で、すぐれた絵を発表していられる。

その後に続く人は、さきに公民館報でご紹介した故**千々岩義高氏**と今回の故**松本克任氏**である。この人たちが生きて天分を発揮されていたら、この上ないよき先輩であったろうと惜しまれる。

現役では**中島治氏**がいられる。以前は津南中学校の先生でもあった。

平国の**浜田荘平氏**は水俣の画塾に通うなどして天分を生かしていられる。

岩崎津久馬氏の絵が赤崎小学校に陳列してある。立派な腕前で中途で画筆を捨てられたことはまことに残念なことだ。

大口在住ではあるが津奈木出身である**千々岩忠興氏**を忘れてはならない。

専門に絵を描いていられる水俣市牧の内在住の**松本得三氏**は津奈木出身である。この四月は東京で個展を開かれる由。

山下益生氏は中学校で絵の指導をしていられる。その甥**山下智明君**は今年熊本第二高校美術科を卒業し、更に上の学校にゆくとか、将来が期待される。

吉村郁也氏と**寺川信昭氏**二人の肝いりで、去る一月十日「**津奈木絵画クラブ**」が発足した。無限の力を秘めた若うどを中心にした二十八名の会員吉村・寺川両氏はこの会の講師として指導して下さることになっている。南潮会は、かくして有望な会員によって受け継がれる。

日中友好九州青年の船　中国訪問記 (二)

中島治美

天津では、まず天津市刺しゅう工場を見学した。同工場は、五十年の歴史があり、現在二百人近くの婦人が働いていた。

仕事はすべてオートメ化され、ミシンは西ドイツから導入し、刺しゅうの図案はパンチカードを利用した近代的なもので、中国では、数少ない機械だと自慢していた様子が印象深かった。

職場には、労働組合があって、労働者の福祉、一般学習職場の運営と労働条件等についての運働がなされているとのこと、定年は、男五五歳迄女五〇歳迄で、その後は、国が定年時の七〇％の手当を支給してくれる。

金額は三八元（四、八〇〇円）～八〇元（九、〇〇〇円）余）と差は大きい。それでも食費が、一五元位だそうだから、暮すにはこと欠かないらしい。

工場で、仕上がる製品は、日本にも輸出しており、日本は、いいお得意先だという話だった。

つづく

投稿歓迎

移動町政のとき「町民の声をのせては」というご意見がありました。

大いに歓迎するところです。どしどしご投稿下さい。

編集部